



くすのき



No.121

R6年1月発行



◆ あけましておめでとうございます 本年度もあと少し お願いします

◆ 生きづらさを生きていくためには ◆

数年ほど前から、ドラッグストアの陳列棚には風邪薬や咳止め薬の空箱が置かれ、お1人様1点限りと表示されています。2点以上購入しようとする、誰が何の目的で使うのか尋ねられます。

咳止め薬や鎮痛薬には、麻薬と同様な鎮静成分と覚醒成分がごく少量含まれています。大量に服用すると高揚感や多幸感が得られるとのこと。この効果は2~3時間程度で、その後、筋肉痛、関節痛、吐き気、悪寒などの激しい離脱症状に襲われます。この離脱症状は覚醒剤や麻薬のような違法薬物よりも苦しいとされ、再び服用してしまいます。市販薬は身近な店で売られているので、一度始めるとなかなかやめられないという側面があります。



市販薬の過剰摂取(オーバー ドーズ。以下「OD」という。)に関して、SNSへの投稿やニュース報道も増えてきています。2022年の10代の薬物乱用は市販薬が6割を超えています(全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査)。ODするのは、非行歴のない10~20代の女性、学校も休まず通う「いい子」が多いです。服用を繰り返すうちにそれまでの量で効かなくなり、服用量が増えます。その結果、肝臓や腎臓への障害、呼吸や心臓の停止を引き起こすこともあります。

医療機関の聞き取りによると、虐待・いじめ・育児放棄など、学校や家庭で感じている辛い気持ちを紛らわしたい、死にたい気持ちから逃れるため、生きるためにODするのだそうです。使用しても犯罪にならない、簡単に手に入ることがありがたいとのこと。ところが、本人や家族だけの解決は難しく、保健所や医療機関などへの相談が求められます。また、解決には長い期間も必要です。

市販薬乱用の増加が日本の薬物政策転換の契機となるかもしれません。現在の薬物政策は、「ダメ。ゼッタイ。」のように規制と厳罰化です。これは1961年国連で採択された条約が根拠となります。その後の調査で、規制薬物の消費量や薬物犯罪者として刑務所に収容される者は増加の一途であったことが分かり、厳罰化は失敗だったと結論づけられました。それにかわって「ハーム・リダクション」という治療や支援に重きを置く政策が提唱されています。

人に頼れない環境が薬物依存を生み出すと言われていきます。薬物使用を厳罰・叱責するのではなく、社会的孤立ではなく、断薬ではなく、その辛い気持ち、不安、焦りなどに寄り添い、分かち合い、少しずつ量を減らしていき健康や安全を取り戻す…。そんなやさしい社会が実現できないかしら？

<参考文献>

- ・井川恵美『市販薬の「大量服用」に依存する人の切実な実態』東洋経済 ONLINE 2020
- ・NHK健康チャンネル『10代に急増する市販薬の乱用-私たちがODする理由とは-』2023
- ・松本俊彦『ハーム・リダクションの理念とわが国における可能性と課題』精神神経学雑誌 2019



2月の補導予定

大塚班	各自補導
三谷班	各自補導
蒲郡班	9日(金)16:30 勤労福祉会館
中部班	各自補導
塩津班	16日(金)18:00 塩津公民館
形原班	各自補導
西浦班	各自補導

◆ 十二月二十日~二十日は
青少年の非行被害防止に取り組む県民運動(冬期)実施期間です ◆

よろしくお願ひします



◆ 編集後記 ◆ 今年は「辰(タツ)年」。「辰」は「龍」でも表します。昇龍のごとく勢いのある年、目標に向けて着



実に昇っていく年にしたいですね。「初心忘るべからず」。家族や街の人たちと良き対話をしましょう。

そして、老若男女問わず、SNSのマナーを守り、犯罪や非行の誘惑にのらぬようにお願いします。

補導は最終コーナーです。温かな目と声が地域や人を育てます。本年も皆で心掛けましょう。